

## 「平成20年度第3回富県宮城推進会議幹事会」 会議録要旨

日 時：平成20年9月9日（水） 午後2時から午後3時30分まで
場 所：宮城県行政庁舎4階 特別会議室
出席団体：資料名簿のとおり

### 1 開 会（司会：宮城県経済商工観光部富県宮城推進室 熊谷副参事）

#### 2 あいさつ（東北大学 渡邊理事（幹事長））

- これまで回復局面にあった我が国の経済は、このところの原油・原材料価格の高騰や、景気の拡大を牽引してきた輸出にかけりが見え始めるなど、先行きに不透明感が増してきている。
- こうした状況の中にあって、地域においては景気動向に左右されない、「しっかりとした経済基盤の構築」が益々重要となってきており、正しく「富県宮城の実現」が求められている。
- 「富県宮城の実現」に向けて柱の一つである、観光産業の振興に当たっては、これから3週間ほどで「仙台・宮城デスティネーションキャンペーン」の本番がスタートする。
- 6月に発生した岩手・宮城内陸地震の影響による風評被害も心配されるが、これまでに県内各地域ではDCの成功に向けて相当準備を重ねてきていると伺っており、私どもとしても何としても成功に結びつきたいと思っているので、各団体の皆様にはなお一層の御協力をお願いしたい。
- 本日の幹事会では、去る7月15日に開催した第2回幹事会において決定した、「団体間で連携可能な取組テーマ」に基づき、事業化に向けてフレームを協議することになっているので、活発な御議論をお願い申し上げます。

### 3 議 事

#### （1）団体間で連携可能な取組（案）について

##### 【人材確保・育成分野】

※ 事務局（産業人材・雇用対策課）より、資料1—1及び資料1—2に基づき説明

#### （社）みやぎ工業会 山城政策委員会委員長（代理）

- 「県内外の学生が県内中小企業を知らない」ということは事務局説明のとおりと思う。当社でも求人情報サイトのリクナビに登録したが、費用対効果の面で悩んでいる。
- このような事業を展開していただくことは、地元企業にとって非常にありがたいことであるが、冊子作りと配布だけで効果が上がるか気になるところである。今後進めていく上で、そのフレームをもう少し検討しないといけないと思う。

#### 宮城県商工会議所連合会 佐藤仙台商工会議所理事・事務局長

- 前回の議論の主旨にかなった提案であり、取組（案）に賛成である。せつかく作るのであれば、作成後は確実に学生や教員の手に渡るような仕組を考える必要がある。実行委員会形式で進めていくとのことであるが、具体的に進める上では予算のこともあるので県でハンドリングしてもらい、各団体がそれぞれの立場から参加する方向とし、効果ある事業にしなければならないと思う。

#### 宮城県商工会連合会 菊地事務局長

- 冊子は作って終わりではなく、有効に活用されるよう考えなければならない。実施体制については、商工会議所連合会と同じ意見である。

**(社)宮城県情報サービス産業協会 原田常務理事(代理)**

- 私どもの協会としても、業界のことを理解していただく必要があるため、業界を説明した冊子を作成し配布している。そこで感じるのは、学生や教員の方々に確実に届くことが必要である。また、作成にはかなりの時間とエネルギーが必要となるので、県の配慮をお願いしたい。

**東北経済産業局 新井総務企画部長**

- 冊子については、確実に届けなくてはならない。県内に大規模企業立地が集中する2010年に向けて、工業高校や大学・高専などの人材を確保するため、即効性のある取組を行うことは評価できる。
- 事業(案)では直接訴求事業も行う予定であるが、単なる人材確保の説明だけではなく、ものづくり中小企業の技術力や魅力を理解してもらうため、企業見学会やインターンシップによる学生の受入など、積極的に展開していく必要がある。
- さらに、産業人材や育成、企業のニーズにマッチした人材供給などの取組は、2010年問題だけの目的で取り組むのではなく、継続的に行っていく必要がある。当局としても、子供達の職業観養成のためのキャリア教育、イノベーションを支える人材育成・確保のための理科志向増進事業等の職業教育を支援するとともに、社会人対象の高度な人材の養成を支援する等、幅広い対象を総合的に支援し、産業人材の安定確保に積極的に取り組んでいく。

**東北学院大学 柳井教養学部地域構想学科教授**

- 富山県では、小学校・中学の教材に富山県の歴史、産業の発展経過などを授業の柱に位置付けている。この延長線上に企業が発展したということを勉強している。郷土の企業に対する想いや県を創っていく場合の重要な要素であることが学ばれており、社会人教育がしっかりしている。また、折にふれ、マスコミも郷土の歴史・人物について番組提供を行っている。
- 実際に高校や大学の就職指導室を見てきたが、高校の進路(進学)指導に関する冊子は多くあるが、就職情報冊子のほとんどが隅に追いやられており、開かれた跡もないような状況も見受けられた。本を開いてもらうよう、その先の仕組みづくりも考えていくことが大事である。
- 魅力ある冊子とするために、大学との連携も検討してはどうか。例えば、冊子とセットで地元企業が出前講座などに参加できるようにし、PRする「場」を作っていくなどの活用方法がある。
- 産業観光面については、愛知を中心に企業が自らお金をかけてPRをしている。
- 仙台市内でも工場見学を受け入れている企業があるが、これらを結びつけて観光ルートを設定する場合、受入企業の魅力以外に複数企業を統一したテーマで設定する点で難しい面もある。  
しかし、試行錯誤を通じて、企業自身が変化し、関連する領域と連携するなどして、魅力ある観光ルートに成長していくこともあるので頑張っていたきたい。

**(社)みやぎ工業会 山城政策委員会委員長(代理)**

- 一番の問題は、県内企業を全く知らない人が多いということだと思う。前回の幹事会で、県から「平成20年度ものづくり人材確保施策」について説明があったが、県では相当積極的に行動を起こそうとしている。今回の冊子の活用方法を具体的に検討し、効果ある取組にしていく必要がある。
- 人材確保は、人対人の活動であり、学生の方に県内企業を知ってもらうため、皆で県内企業をPRするなどの行動が必要である。実行委員会の中でそれらも含めて検討していただきたい。

**【観光分野】**

※ 事務局(観光課)より、資料2に基づき説明

**宮城県観光誘致協議会 西條事務局(代理)**

- 県内の小中学生の多くが校外学習を行っており、主に県外に行っている。関東の公立の中・高校の9割は修学旅行先として関西方面を選んでいる。また、県内への教育旅行の宿泊数は、福島県の三分の一程度に過ぎない。
- 観光資源に恵まれている中にもかかわらず、その魅力が整理されていないため発信されていない。海や山にも近く、都市型機能を持っている県はそれほど多くないと考えており、宮城ではバランスが保たれた教育旅行をもっと提供できるものと考えている。
- 工場見学や職場見学などの産業観光の取組に関しては、客観的に見て弱点部分である。各団体・企業から協力をいただき、工場・職場見学などを受け入れしてもらい、CO<sup>2</sup>削減等環境問題への取組を地域の魅力として発信できると思う。
- 地産地消という意味では、宮城以外の地域に行って校外学習している県内の学校にも、県内にも魅力ある地域があることを発信できるように、環境を整えていきたい。

**渡邊幹事長**

- 教育旅行の宿泊数であるが、福島の年間72万人に対し、宮城では18万人とのことであるが、この差の原因は何か。

**事務局(観光課)**

- 福島県では、修学旅行の誘致に熱心に取り組んでいる。修学旅行や農業体験などの受入施設や受入態勢などが整っている。宮城では、これらを整理していかなければならない。

**(社)東北経済連合会 小野地域政策部長**

- 東北観光推進機構の教育旅行部会と連携できればと思う。関東の修学旅行の9割以上が関西方面に行っているが、最近では体験型を重視する傾向にある。また、関西の方に多く行っているため、旅館が確保できないという観光エージェント側の悩みもある。
- 全体的に見ると、団体旅行客が減少している中、教育旅行は団体旅行の魅力的なマーケットとなっており、地域振興・地域づくりにも繋がるものであることから、これらの取組に力を入れることは大変大事なことと考える。東経連としても協力していきたい。

**宮城県農業協同組合中央会 渡邊総務部長(代理)**

- JAでは地域において農業体験などが行われている。農業体験などの多くが、それぞれのJA管内の小学校の先生方との連携で行われているケースが多い。
- 県外からの修学旅行は、一部、産直活動や国産農産物など、「食」をテーマとして、東京や隣県の学校と20年も継続して取り組んでいる実態もある。これは信頼関係の積み重ねであり、一過性でないことが大切である。
- 仙台市の児童数は多いが、その多くが岩手や山形に行っている。JAでは田植えや稲刈りツアーなどの取組を始めた状況である。

**(社)みやぎ工業会 山城政策委員会委員長(代理)**

- 産業振興については、県が企業誘致に取り組んでいるが、観光となった場合、自然を活かしたものであることから、観光資源を外から持ってくる訳にもいかない。観光資源作りを皆で考えなければならないのではないか。福島への観光客と観光資源の比較はどうなっているのか、切り口を変えて検討する必要があるのではないかと思う。

**宮城県中小企業団体中央会 羽根田事務局長**

○ 県内の大島では民宿を営んでいる仲間が組合を作り、漁業体験や加工（調理）体験などに取り組んでいるが、都会の子供たちを受け入れるにはトイレの問題がある。産業教育という切り口で、首都圏や外部から子供達を受け入れる場合は、受入態勢の支援も併せて考えていただきたい。

⇒ 「人材確保・育成分野」及び「観光分野」の取組案について、了承。

**(2) (仮称)「富県宮城グランプリ」表彰制度(案)について**

※ 事務局(富県宮城推進室)より、資料3に基づき説明

**経済商工観光部 北村次長**

○ 表彰については、毎年、反省・検証しながらより良いものに仕上げてまいりたい。各団体の御協力をお願いしたい。

⇒ 了承。

**4 報告事項**

**(1) 仙台・宮城デスティネーションキャンペーンでの圏域ごとの取組について**

※ 事務局(観光課)より、資料4及び参考資料2に基づき説明

⇒ 意見無し

**宮城県農業協同組合中央会 渡邊総務部長(代理)**

○ 関連して、私どもも取組を御報告したい。デスティネーションキャンペーンに関連した取組についてであるが、「仙台味噌・純米酒・宮城米」の取組のほか、10月17日から10月31日までの間、仙台駅内の飲食店と全農がタイアップし、宮城米をプレゼントするイベントを開催する。また、コンビニなどでは、ポイントシールを集めると新米やJRのスイカカードをプレゼントする企画も行う予定である。

**(2) 企業立地に向けた市町村の取組について**

※ 事務局(産業立地推進課)より、資料5に基づき説明

⇒ 意見無し

**(3) その他**

※ 事務局(富県宮城推進室)より、「農商工連携事業に関する県の役割」、「今後のスケジュール(次回幹事会は平成21年2月頃開催)」について説明

⇒ 意見無し

**5 閉 会**